

標 題 : Olive oil intake is inversely related to cancer prevalence:
a systematic review and a meta-analysis of 13800 patients and
23340 controls in 19 observational studies
オリーブ油摂取はがんの有病率と逆相関する : 19 件の観察研究での
患者 13800 人と対照 23340 人による系統的な再検討およびメタ解析

著 者 : T. Psaltopoulou, et al. (ギリシャ アテネ大学 医学部
衛生学・疫学・医療統計学科)

掲 載 誌 : Lipids Health Dis. 2011 Jul 30; 10: 127

要 旨 :

食事脂肪は量的と質的の両方の観点で、発がんに対してプラスまたはマイナス
に關与する。

この研究の目的は、オリーブ油または1価不飽和脂肪の摂取ががんの発生に
關連するかどうかを評価することであった。

1990年と2011年3月1日の間に英語で発表された關連研究の系統的な検索を
コンピューター支援文献ツール(つまり Pubmed)によって実施した。

合計 38 研究を最初に割当てて、そのうち 19 件の症例-対照研究を最終的に
研究した (13800 人のがん患者および 23340 人の対照を収録した)。

研究仮説を評価するために、ランダム効果メタ解析を採用した。

最低と比較してオリーブ油摂取の最高区分はあらゆる種類のがんに罹ることの
低いオッズ比と關連すると認められた(対数オッズ比 = -0.41、95%CI -0.53, -0.29、
コクランの Q=47.52、P=0.0002、I-sq=62%) ; 後者は出身国 (地中海沿岸諸国ま
たは非地中海沿岸諸国) と無關係であった。

その上、オリーブ油摂取は最低摂取と比較して、乳がん(対数 OR = -0.45、
95%CI -0.78 から -0.12)および消化器がん(対数 OR = -0.36、95%CI -0.50 から
-0.21)の発症の低いオッズ比と關連した。

研究結果の強度および安定性が、がんリスクに対するオリーブ油摂取の予防的
な役割に關する仮説を述べる。

しかし、オリーブ油の1価不飽和脂肪酸含量またはその抗酸化成分のどちらが
その有効性の原因であるかはまだ明らかでない。

キーワード : がん、オリーブ油、地中海食事、再検討、系統的、メタ解析
